エチオピアからターディアス②

働き者で元気な子供たち

（パートⅠ）

アジス・アババの朝は早い。サアート・ウラフェイーが明けると、街のモスクからは、イスラム教徒たちの一日の祈りが聞こえる。

朝五時半、辺りは薄暗い。アフリカのでっかい太陽は、まだ顔を出さない。土壁、トタン屋根の粗末な家から、子供たちがぞろぞろと広場に集まって来た。大雨季のアジス・アババは朝夕冷え込む。白い息を吐きながら、眠い目をこすり、男の子はマルカート（アフリカ最大の市場）へと仕事に出かける。

エチオピアの夫婦は子沢山。十人の子供を抱える家はざらである。子供の数（〇歳～十四歳）は全人口の四五・五パーセントで、〇歳～四歳児の死亡率は、栄養失調、医療の遅れなどから出生率の二五パーセントにも達する。エチオピア人の平均寿命四十八歳。この低さは、子供の数が半数近くにも及ぶためでもある。

子供たちは普通、六歳から十二年制の政府の無料学校に通う。昼三シフト、夜一シフトで、一シフトは三時間、四十分単位の授業カリキュラムである。朝七時半～十時半、十一時～二時、二時半～五時半、五時半～八時半の時間帯で、この中のどこかに通い、残りの時間は自由なのです。

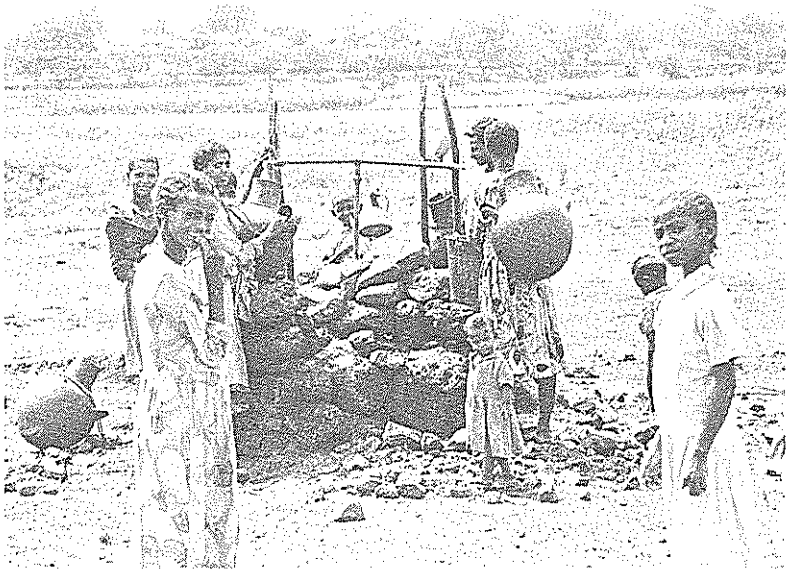
エチオピア人の平均賃金は、一カ月三百五十ブル（三万六千円）前後で、多くの子供たちを抱え暮らしていくのは苦しく、自然と子供たちが働いて家計を助けています。洗車、見張り、靴磨き、タバコ・宝くじ売り、お店の御用聞き、ビン集め等々。これらの仕事には、子供どうしで決めた縄張り、規律があり、これを守らなければ、それぞれの地区内で稼げない仕組みになっています。

子供たちが考え出した、ちょっと変っていて、おもしろい仕事を紹介しましょう。

アジス・アババには、約七千件ものブンナ・ベット（コーヒーハウス）があります。このブンナ・ベット、夜には居酒屋となり大人たちの社交場に変身。そこに働く女性は、一万五千とも二万とも言われていますが、その彼女たちのオシャレの一つに、マニキュア、ペディキュアがあります。仕事が始まる前の彼女たちのもとへ、商売道具を持って、子供たちが注文取りにやって来ます。色、数、仕上げを聞き、一本一本ていねいに装っていきます。

ブンナ・ベットは、子供たちにとって大の得意先。いりまめ、とうもろこし、卵売りの少女たちは、お客さんが食べ終わるまで、店の外で待っていて、テーブルの上に散らかった卵の殻やゴミを掃除して、次の店へ移っていきます。これも規律の一つでしょうか。

（次回へ続きます）



▲水くみは女や子供たちの仕事。水くみ場に集まっている子供たち

▼燃料の馬糞を頭に乗せて歩く少女